

石工の卵、新たな一歩

宇都宮の大谷アカデミー 1期生が成果発表



会場に展示された第1期生の修了製作＝22日午後、宇都宮市内

大谷石の加工や施工を行う「石工」の育成を目指す「大谷アカデミー」の1年間の成果を報告する発表会が22日、宇都宮市大谷町の城山地区市民センターで開かれた。

同アカデミーは石工の高

齢化や後継者不足に危機感を持った石材業者らが中心となり、昨年4月に開講。20～60代の第1期生11人が学科、実技合わせて90講座を受講した。受講生は会場に展示した修了製作を前に、作品に込

めた思いや製作過程の苦労などを語った。12年勤めた会社を退職し4月から大谷石加工会社に就職する内海貴司さん(34)は「大谷石の温かみや優しさを感じ仕事にしたいと思った。大谷で生まれ育ったので、技術を継承することにも魅力を感じる。建造物にも興味があり、彫刻もしてみたい」と意欲を見せた。

発表会に先立つ公開講座では、大谷石が使われていた旧帝国ホテル解体時の調査に携わった河東義之小山高専名誉教授が「大谷石と旧帝国ホテル」と題して講演した。

同アカデミーは4月から第2期生2人を迎えるとともに、内海さんから第1期生4人が中級講座に進む。(石幡愛)